

最近の為替・債券市場の動きについて

2008年3月17日 国際投信投資顧問 債券運用部 作成

最近の為替・債券市場の動きについて

為替市場では、円が主要通貨に対して上昇し、17日の東京市場(午前中)では一時1ドル=95円台まで円高が加速しました。また、債券市場では国債金利が低下(債券価格は上昇)しています。

この背景としては、以下の2点があると考えております。

①米国金利の先安観

米国では、景気後退懸念に加えて大手証券の一角が資金繰りが悪化しているとの憶測から、18日の連邦公開市場委員会(FOMC)では0.75~1.00%幅での利下げが実施されるとの見方が浮上しております。

②リスク回避志向の鮮明化

今週本格化する米国証券会社の決算発表において、住宅ローン関連の商品に加えて商業不動産や企業向けローンについても追加損失を計上するとの見方が台頭しております。

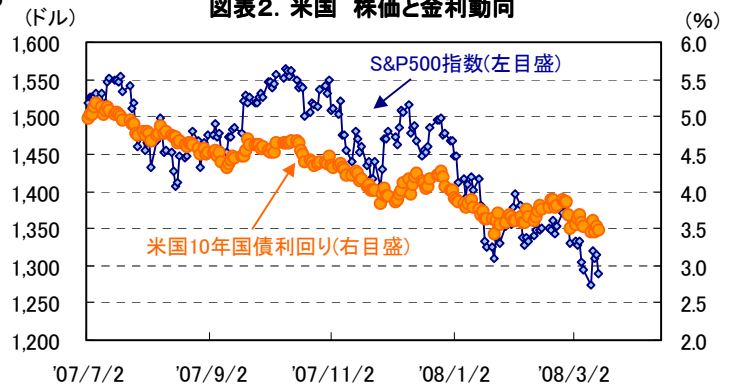
投資家のリスク回避志向が強まった結果、株式市場から安全資産である債券への資金シフトが鮮明となり、為替市場では特に米ドルが調整する展開となっております。

図表1. 主要通貨の対円レート(対顧客電信売相場中値)

	昨年8月 (07/8/1)	本日 (08/3/17)	変化率% (マイナスは円高)
スイス・フラン	98.64	99.36	0.73%
ユーロ	161.97	153.91	-4.98%
デンマーク・クローネ	21.77	20.64	-5.19%
ノルウェー・クローネ	20.29	19.20	-5.37%
スウェーデン・クローナ	17.59	16.26	-7.56%
オーストラリア・ドル	101.11	91.15	-9.85%
カナダ・ドル	111.09	98.37	-11.45%
米ドル	118.58	97.52	-17.76%
英ポンド	240.61	196.57	-18.30%

出所) Bloomberg

図表2. 米国 株価と金利動向



出所) Bloomberg

今後の見通し

☆米ドル安が続く見込み

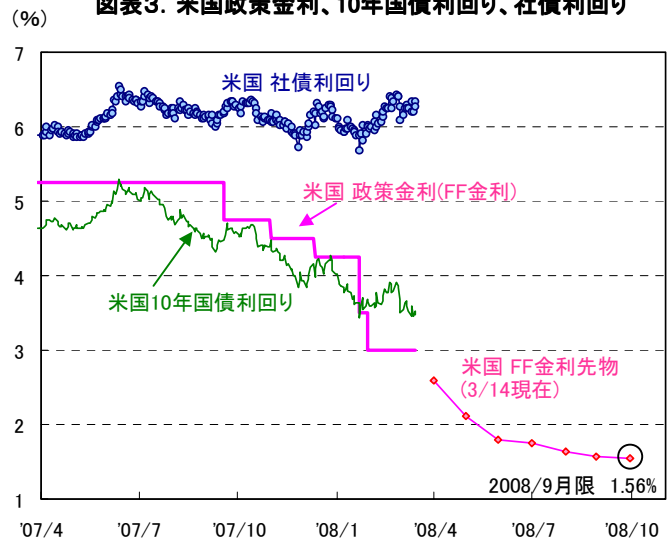
FRB(米連邦準備理事会)が緊急利下げを実施した昨年8月以降も、市場での信用収縮の動きが続いております。

政策金利であるフェデラルファンド・レート(FF金利)は、これまで5回の利下げの結果、5.25%から3.00%まで低下していますが、企業の資金調達コストの代表であるBBB格付けの社債金利は高止まったままとなっております(図表3)。

現在市場では、1.50%近辺までの利下げを既に想定していますが、社債金利や住宅ローン金利が低下に向かうまでは、FRBは積極的な金融緩和を実施する可能性が高く、金利先安観を背景とした米ドル安が長引く公算が高くなっております。

また投資家の質への逃避姿勢の結果、国債金利は低下基調を続けると考えられます。

図表3. 米国政策金利、10年国債利回り、社債利回り



※米国 社債利回りは、投資適格(BBB格)の10年債利回りを使用。

出所) Bloomberg

「本資料に関してご留意いただきたい事項」

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意下さい。
 ○本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 ○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 ○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。